

美空復活5連勝

紙相撲新聞

第154回本場所
三～五日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

千代鈴も無敗で大関へ視界良好 若ノ嶋は出羽翼に敗れ一歩後退

若ノ嶋は出羽翼に敗れ一歩後退

【第百五十四回本場所三日～五日目】

初日と二日目の開催日からちょうど1ヶ月経った11月3日に三日目～五日目が開催された。

五日目を終わって、横綱美空富士、関脇千代鈴が5連勝として優勝争いの先頭に立ち、これを横綱若ノ嶋、平幕の鬼ヶ嶽、鉄甲、麒麟王、龍不動の5人が1敗で追う展開となった。

一方、横綱春ノ翔が2勝3敗と振るわず、また、横綱昇進を賭ける大関佐



↑ 復調著しい美空富士は先場所敗れた新小結剛勇山に相撲を取らせず完勝し、今場所土つかずの5連勝。復活優勝に期待がかかる。

↓ 若ノ嶋は先々場所苦杯を喫した出羽翼にまたしても黒星献上。美空が好調なだけに痛い1敗を喫した。



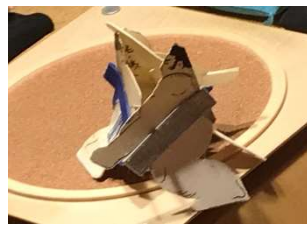
「あー！」と驚きとも悲鳴とも言える声が鳴り響き、若ノ嶋の背中には敗戦のあの土俵の砂がべっとりとついた。取り組み後、若ノ嶋は「苦手にはしたくないなあ！」と一言

初日の連覇を狙う若ノ嶋は初日、二日目と隙のない横綱相撲を見せたが、三日目に落とし穴が待っていた。相手は前頭筆頭の出羽翼、10勝1敗としながら先決戦で敗れて惜しくも優勝を逃した先々場所でも唯一の1敗を喫した相手。出羽の踏み込みよく体を起こされると、出羽の強烈など輪に土俵中央で仰向けに倒された。

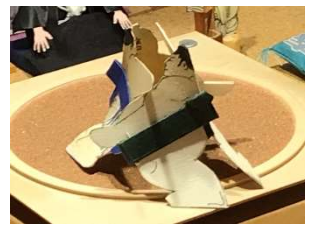
賀ノ海が1勝4敗となって場所後の横綱昇進は絶望的となった。

発して国技館をあとにした。

三日目の敗戦を引きずりたくない若ノ嶋は、四日目を一新して土俵に上り、四日目は烏帽子岳、五日目は超刃にまったく相撲を取らせず、親方も三日目の負けは仕方ない。それ以外



若ノ嶋○(寄り切り)●超刃



若ノ嶋○(寄り切り)●烏帽子

今場所、進退を賭けて臨んだ美空富士だが、初日、二日目と「ニュー美空」と言えるこれまでにないような取り口で2連勝としたが、これが本目と言えるところはないとわからない。「初日の美空の相撲には驚いたなあ！出羽に左を差されて万事休すかと思っただけ、そこから前へ出て寄り切っちゃうんだからね！」と美空の相撲に感心しきりの錦風親方。

三日目は対戦成績で5勝と合い口のいい超刃戦。立



美空富○(引き落とし)●超刃

差す体勢に。ここから超刃が前に出るが前のめりになり廻しが土俵につく。勝負は超刃の相撲。四日目の英笹には鋭い速攻相撲で寄り切り、五日目は剛勇山を左差しから寄る圧巻の相撲で勝ち、初日から5連勝を飾った。場所前はどうか、横綱と心配されたが、綱らしい相撲が蘇ってきた。これは本物だ。



美空富○(寄り切り)●英笹

初日、二日目と連敗スタートとなった春ノ翔。この日は桐壺親方が国技館に顔を出せず、磯ノ海親方を通じて、もし三日目に負けたら休場させたいとの申し出があった。「三日目に負けるとは、まだ休ませるには早すぎるとは思わないかなあ。」と鹿賀乃戸親方。「そんなことはないと思うけど、割も組んであるんだし、五日目まで取っても全敗しても負け越してはいいわけだから、5日間取ってもいいんじゃないかな？」と錦風親方。

まあ、とにかく取ってみたいと何が起るかかわからないのが紙相撲。そんな外野の声を上がった。対戦相手は烏帽子岳。春ノ翔は踏み込みよく立ったあと左を差すなり、一気に向正面に寄るが烏帽子の引きにばったり土俵を這った。



烏帽子○(引き落とし)●春ノ翔

これで初日から3連敗。桐壺親方がいれば「休場！」と申し出たかも知れないが、四日目は朱雀湖前日の烏帽子戦同様、立合いに踏み込みよく左を差して前へ出るも何やかやの朱雀を寄り切った。初日を飾った。



春ノ翔○(寄り切り)●朱雀湖